

近縁な植物の比較

オカトラノオ・ヌマトラノオ

小林 浩二

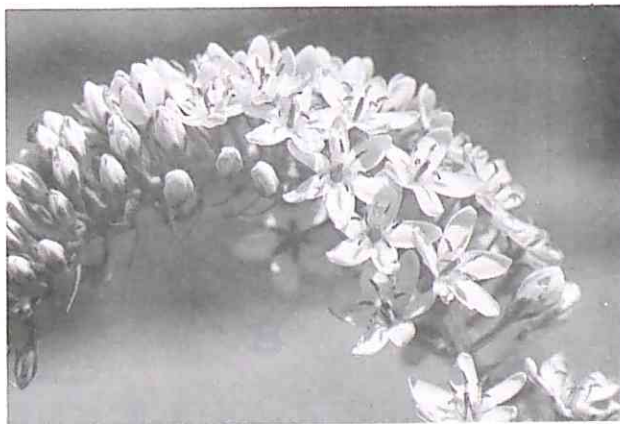
オカトラノオ（さくらそう科）

生育地・生育型：山すそや丘の光陽地に生える多年草。

葉・茎：白い長い地下茎をのぼして繁殖する。茎は高さ60～100cmで枝分かれせず直立する。葉は互生し短い葉柄があり葉身は長い楕円形、前縁で葉面とふちにまばらに毛があり、先はとがる。

花・果実：花期は6～7月、茎の上部に白い花を多く穂状につけ一方に傾き開く、花柄には細かい毛があり、がく、花冠共に5裂し、おしべ5本、めしべ1本。さく果は球形でがくに包まれる。

ノート：ヌマトラノオに似ており比較すると、本種は水辺には見られず、全草大形、花は少し大きくすきまなくつき、花穂は一方に傾くなどが異なる。名前は花穂の形が虎の尾に似ているので、岡虎の尾と呼ぶ。県内全域に分布し垂直分布の下限は岩船郡粟島浦村の1m、上限は北魚沼郡湯沢町三国峠 1150mである。



▲オカトラノオ 中魚沼郡津南町山伏山(1979. 7. 8)

ヌマトラノオ 北蒲原郡中条町鳥坂山 1991. 6. 30▶

ヌマトラノオ（さくらそう科）

生育地・生育型：湿地や小川のほとりなどに生える多年草。

茎・葉：地中に地下茎をのぼして繁殖、よく群落をつくる。茎は枝分かれせず直立し、高さは40～70cm。葉は互生し葉柄はなくほとんど無毛、葉内に淡色の腺点があって先はとがる。

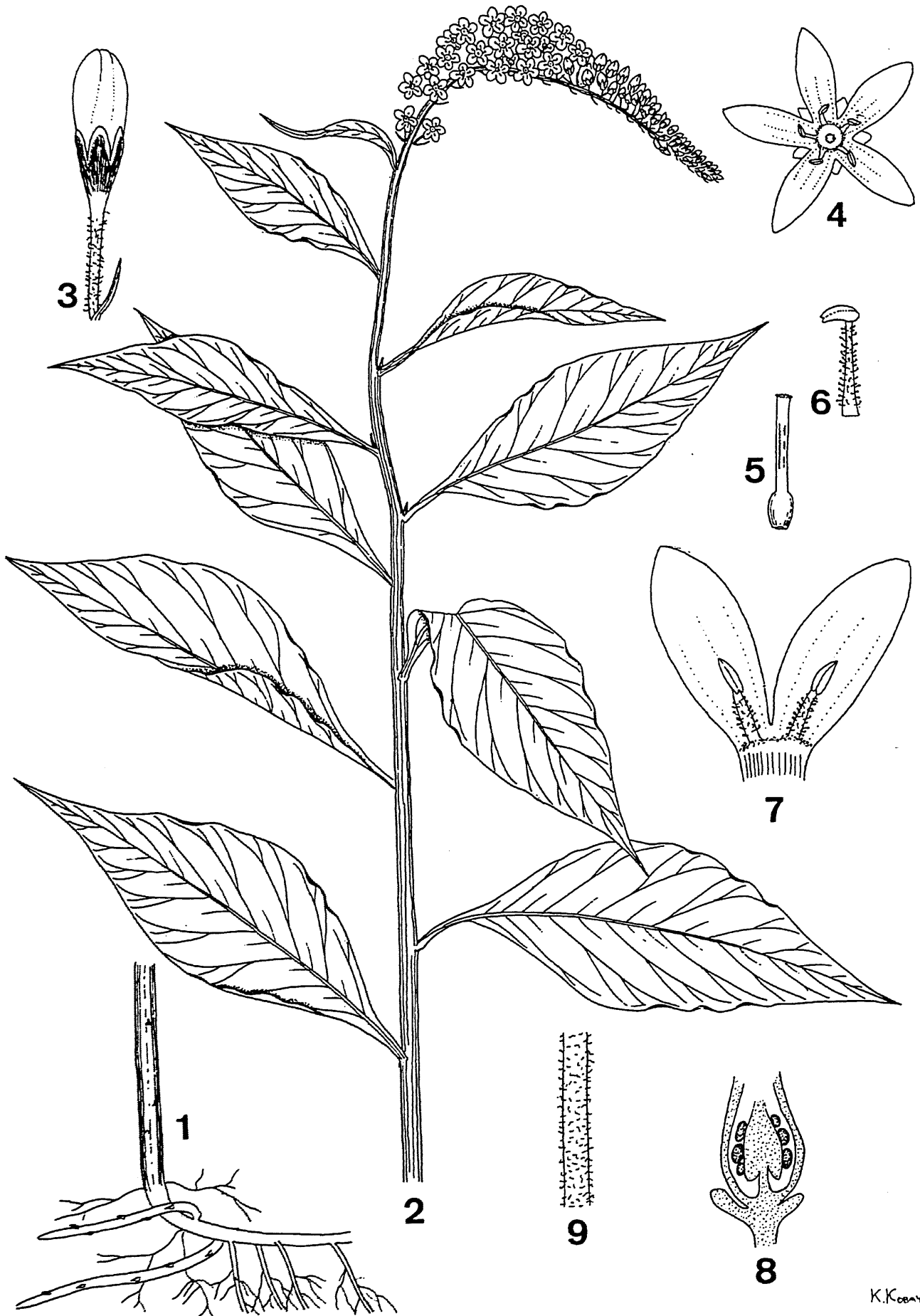
花・果実：花期は6～7月。茎の上部に白い花を多く穂状につけ直立する。短い花柄には細かい毛があり、がく、花冠共に5裂し、おしべ5本、めしべ1本。さく果は球形でがくに包まれる。

ノート：オカトラノオに似ており比較すると、本種は湿地を好み、全草小形、花序はやや細く傾かず、花はやまばらにつき直立するなどが異なる。粟島を除く県内には広く分布する。垂直分布の下限は新潟市鳥屋野の1m、上限は佐渡、妙見山祓川の730mである。



ヌマトラノオ 西蒲原郡巻町稲島 1987. 7. 5





K. Kobayashi

図1. 地下茎と茎×0.5 図2. 全形×0.5 図3. つぼみ×2.8 図4. 花×2.8 図5. めしべ×4.7 図6. おしべ×4.6 図7. 花冠と対生するおしべ×5.3 図8. 子房の断面×8 図9. 上部の茎×1.5

採集地 新潟市三葉町海岸 1992. 7. 15

ヌマトラノオ (さくらそう科)

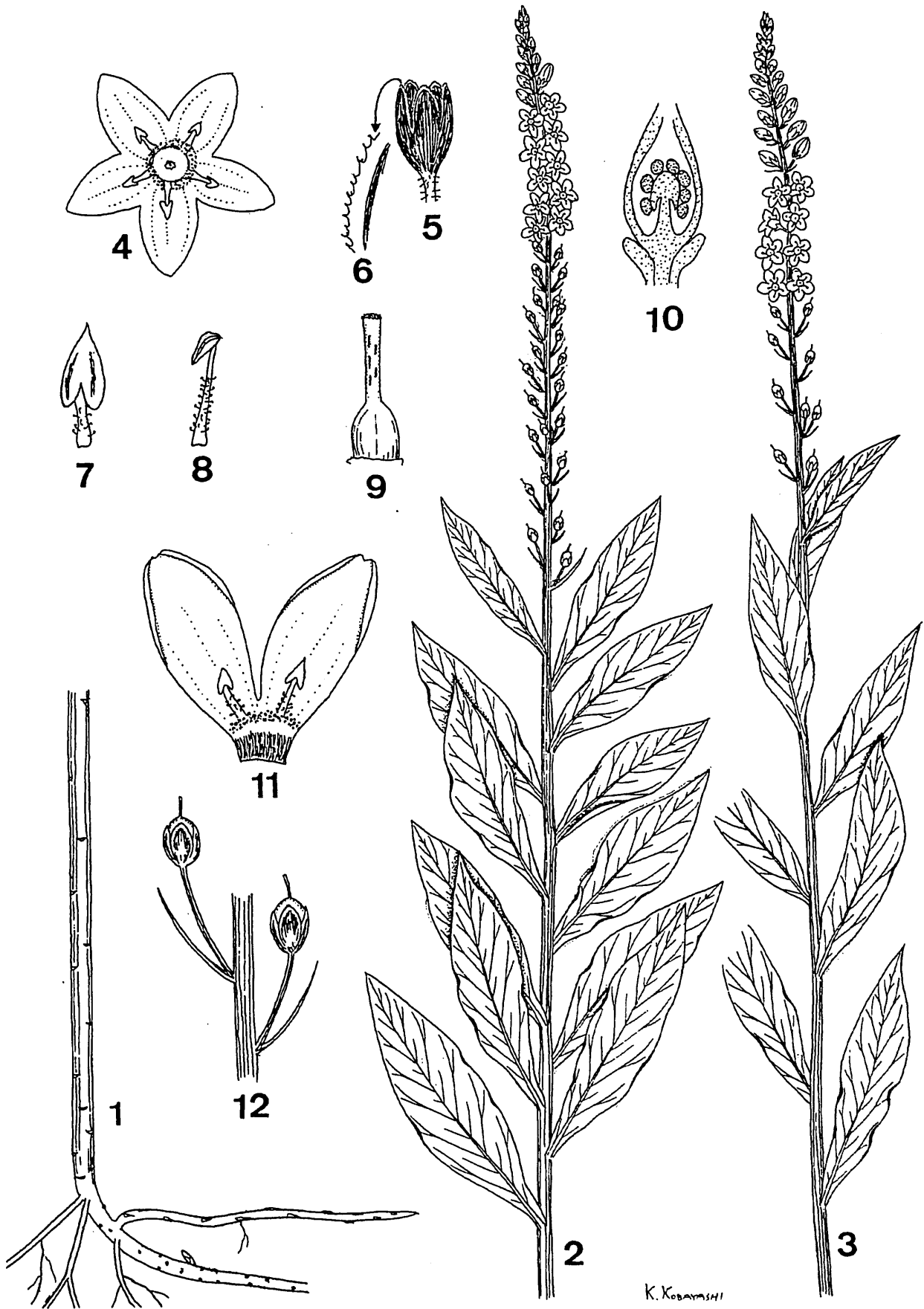


図1. 地下茎と茎×0.7 図2・3. 全形×0.5 図4. 花×4 図5. がく片×3.6 図6. がく片のへり×14
 図7. おしべ×7 図8. おしべ×4.6 図9. めしべ×6.7 図10. 子房の断面×8 図11. 花冠と対生するおしべ×
 5.3 図12. さく果×2.1

採集地 新潟市内野町広通江川 1992. 7. 20
 こばやしこうじ 〒950-21 新潟市五十嵐三の町9148